

地域の方々にご利用されて

お買い上げ客160万人を突破



▲プレゼントを受け取った160万人目の武田さんご夫婦

みようが館で11月12日に、お買い上げ客160万人達成イベントが行われ、該当者に直売品の詰め合わせ等が贈られました。
みようが館は今年設立15周年を迎え、長年地域の方々に愛され利用を頂いています。160万人目は能代市機織の武田豊さん・トエさんご夫婦で、「設立当初から利用していて、いつも美味しい直売品などを提供してくるので、大変助かっています！」と笑顔で話していました。

役職員一人ひとりが

不祥事未然防止を誓い合おう



▲全職員が情報管理の重要性を再確認した

J Aのコンプライアンスについて再確認を行い、業務全体における不祥事の未然防止を図るため、J Aは全職員を対象にコンプライアンス研修会を行いました。
研修会では、はじめに袴田組合長が「農業情勢が大きく変化している中、信頼されるJ Aであり続けるためにも、コンプライアンスの徹底が重要となる。」と挨拶。その後、農林中央金庫の近江常彦さんを講師に、個人情報保護や守秘義務などについて研修を行いました。

「食と農」の理解を深める

向能代小学校児童の稲刈り体験



▲黄金色に染まった稲穂を刈り取る児童たち

J A青年部北支部による向能代小学校児童の稲刈り体験が行われ、児童達が春に手植えをした苗の生長に感じながら、丁寧に収穫を行いました。
この体験学習は、児童たちが田植えから稲刈りまでを行い、農業の大切さを学ぶために毎年開催されています。収穫を行った児童は「食べ物を作る大変さと、その大切さが分かりました！」と話すなど、体験を通じて「食と農」の繋がりを実感していました。

今年度の稲作実績を検討し

天候に左右されない稲作を目指す



▲来年度の営農に向け意見を交換し合う

J A稲作部会藤里支部による稲作実績検討会が12月3日に行われ、今年度の稲作実績や来年度の営農計画を協議しました。
検討会には、約50名が参加。はじめに加藤正徳支部長が「今年は春先の天候不順等で生育遅れになったが、これを踏まえ天候に左右されない栽培の確立が急務となる。」と挨拶。その後担当者から、稲の生育や収穫・出荷について説明が行われほか、病害虫防除についても話し合われました。